



研究室旅行で参拝した熊野速玉大社

日本文学・国語学専修

日本文学では、古代・中世の和歌や漢詩文、『源氏物語』などの物語文学、説話や随筆、近世では芭蕉・西鶴や秋成らに代表される俳諧や浮世草子、読本、近代では明治期の一葉や漱石から現代文学にいたるまで、ほぼ全ての時代とジャンルを研究の対象としています。古写本や板本、書簡などの文献資料を扱うための基礎技術（書誌学など）の習得に重きを置いています。

国語学では、音韻・文法・語彙・文字などの各分野について、日本の言語を歴史的に研究します。さまざまな言語現象を論理的・体系的に明らかにしていくのですが、社会的、文化的、また心理的な面を考慮することも必要です。古典など文学作品の言語から現代の言語まで、国語に関することは全て対象となりますが、歴史的変遷を考える研究や、文献に基づく研究に重点が置かれます（下線部が日本語学専修との差異）。

自国の文化や言葉について、その歴史的な変遷を含めて深く知ること、すなわち、日本についての“本物の知識”を得ることは、国際化が進み、社会情勢が複雑化する今日、ますます重要になっています。本研究室では、こうした今後生きてゆく上で土台となる思考を学ぶことが可能です。

http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_Nihon/_Nihon_Index.php (日本文学)

http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_KoKu_Index.php (国語学)

<http://nichibunkokugo.blog.fc2.com> (ブログ)

教員

金水 敏 教授	きんすい・さとし
飯倉洋一 教授	いいくら・よういち
岡島昭浩 教授	おかしま・あきひろ
滝川幸司 教授	たきがわ・こうじ
岸本恵実 准教授	きしもと・えみ
斎藤理生 准教授	さいとう・まさお
勢田道生 准教授	せた・みちお

どんな授業があるの？

【講義題目】

詩序を読む、日本近代小説史、日本語意味論、国語学における方言学

【演習題目】

『俊頼髓脳』を読む、キリシタン版「エンボのハプラス」を読む
『英草紙』を読む 4、国語辞典の研究

何を学んでいるの？

日本文学研究入門

物語論を援用して、日本近代文学の代表的な作品を読解しています。何が書かれているかだけでなく、どのように書かれているのかも分析することで、小説をより豊かに味わえるようになります。

国語学入門

私たちが古文の日本語を難しいと感じるのは、文法、語の意味、表記などが現代と異なっているからです。上代から現代に至る日本語の歴史を、文献に基づき考察する方法とともに学びます。

日本の文学C「江戸の怪談」

さまざまな江戸時代の怪談を紹介します。その題材・話型・表現などを検討し、現代にも通じる部分、江戸時代に特有の部分の両方を考えることで、江戸時代の人々の感じ方や考え方に迫ります。

教養としての日本語

「ジブリアニメを言語から分析する」いわゆるスタジオジブリ作品のアニメーション映画（特に宮崎駿監督作品）を、ストーリーの構造の分析、登場するキャラクターの分類を踏まえながら、その台詞のスタイルとキャラクターの類型的な分析を行い、作品をより精密に分析する方法について学びます。

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

夏目漱石作品における〈笑い〉の表現について

― 反復される表情 ―

夏目漱石の小説の登場人物たちが、しばしば印象的な笑顔を見せることに注目した考察。特に『三四郎』の美禰子が見せる白い歯と、『行人』の直の淋しい笑いを取りあげて、内面が分かりにくく、男たちを惑わせる彼女たちの性質を、反復される笑顔を糸口に、鮮明に解き明かした。（選：斎藤理生 准教授）

ヒーローの名乗りの系譜論

「五人そろって!」「ゴレンジャー!」のように、日本のヒーローものの作品では、登場人物たちが自ら名乗りを上げ、それが一種のエンターテインメント的要素としてショーアップされる現象がある。その淵源を歌舞伎作品にたどりつつ、どのような作品に受けつがれ、変化していくかという系譜をたどっていく。（選：金水 敏 教授）

【卒業論文題目】

物語文学における「大宮」呼称

―『うつほ物語』・『源氏物語』を中心に―

『とはずがたり』における信仰と後深草院の位置づけ

豆男物の研究

猫を悼む日本漢詩について

村上春樹『私たちの時代のフォークロア

―高度資本主義前史』論

フィクション作品における「おネエキャラクター」の発話について

『リア王』の日本語訳の研究―言葉遊びを中心に―



じっくりと資料と向き合う、奥の深い授業が魅力です。

学生
インタビュー

研究室の雰囲気は？

A みなさんとても真面目に勉強されています。

B 分からないことがあれば先輩が優しく教えてくれますよね。

C 院生の方は資料など何か探し物があるときも助けてくれます。

D 私は発表準備の際にアドバイスをもらいました。

B 和やかで入りやすいです。

A 私はまだ入るのに少し勇気があるかな（笑）。

D 慣れば入りやすいですよ。

C 留学生の方々も楽しそうにしています。

授業の雰囲気は？

A 講義よりも演習のほうが多いのが、楽しくも疲れるところですよ（笑）。

D 演習はどの授業も意見が活発に出て、とても内容が濃いです。

C 真面目な人が多く、すごくしっかりと議論が行われていると思います。

B 質疑応答が盛り上がり、授業外でも学生同士で議論している姿を見かけます。

D アットホームで発言しやすい雰囲気があります。

A 学年に関係なく自由に意見を言えます。笑いもあって楽しいです。

B みんなの意見・知識が深くて毎回感銘を受けています。

D 好きなことができていて実感があります。

はじめての演習発表

A 最初は手探り状態でしたが、先輩方の発表を見よう見まねで資料を作りました。発表後、意見をもらったのが嬉しかったです。

B 発表するということは担当内容について責任を負うことだと思っています。

す。限られた時間の中で論理的な内容を組み立てるのが難しいです。

C さまざまな質問をもらって視野が広がりました。

D くずし字が読めなくて大変でした。でも調べてゆく内に、分からないことが分かってくるのが面白いです。

A 質問されるのが怖くて緊張しました。ただ、この緊張感自分を成長させてくれるように感じます。

C 準備をしていれば心配することはないですよ。

B 発表を終えた際の達成感、言葉にしがたいものがあります。

D はじめは分からないことばかりですが、分からないことはどんどん周りに聞くと良いですよ。

印象に残っている授業

D 国語学のキャラクター言語分析には衝撃を受けました。テーマやまとめ方の自由度が高く、最近のアニメやマンガを題材にすることが多いので、人の発表を聴いていても面白いです。

A 「このキャラはギャップ萌えをねらったのではないか」といった議論を先生と真剣にできるのがうれしいです。

C 私は役割語の演習が楽しすぎて専修変更してここにきました（笑）。

B 古典文学の演習では、くずし字を読むところから始まり、語句の解釈なども行いました。はじめは意味の分からなかった短歌が、さまざまな方向から調べてゆくことで理解できたときは嬉しかったです。

A 多くの論文を読み、知識を増やすことができたため、印象に残っています。

C 近代文学の演習では、思わぬ質問がどしどし飛んできて楽しかったです。

D グループで話し

合いを行うので、さまざまな人の意見を知ることができて楽しいです。

B 1年を通して一つの作品について多角的な考察が得られて、大変勉強になります。

先生はどんな人？

C 親しみやすい先生が多く、質問などもしやすいです。

B 演習でも、基本的に学生の意見を受け入れた上で、学生には思いつかなかった観点からアドバイスをくださるのでとても勉強になります。

A 厳しそうで、最初は話しかけるのに勇気がいりました。でも実は面白い先生が多いです。ご自身の分野の話をされているときはひとときわ楽しそうに話されます。

D 私は初めて研究室見学に行ったとき、挨拶ただけで出身地を見破られてしまいました。日々ことばを研究されている先生方の観察眼に驚きました。

後輩へのメッセージ

A 時代を問わず、日本文学・国語学に興味があるなら、その「興味」を「学び」に発展させられる研究室です。

B 専修内でも講義や演習の内容は幅広く、学べることも多いです。いろいろなことができる専修だと思います。関心が多方面に向いている方にお勧めです。

C じっくり勉強ができる専修です。高校までの「国語」で知っていると思った日本語・日本文学を、まったく別物として見ることができます。

D まだ始めたばかりですが、「研究」は、高校時代に思い描いていた「勉強」よりも楽しいです。自分から積極的に行動すればするほど、学べることが多くあると思います。